

令和5年度事業計画書

令和5年9月1日から

令和6年8月31日まで

1. 第72回学術総会の開催

会期：2023年10月19日（木）～10月20日（金）

会場：あきた芸術劇場 ミルハス・にぎわい交流館 AU

学会長：JA秋田厚生連 北秋田市民病院 病院長 神谷 彰

テーマ：SDGsで考える少子高齢化における医療 ～咲き誇れ秋田～

(1) 学会長講演

「少子高齢化の先進地から持続可能な医療を考える」

北秋田市民病院 院長 神谷 彰

(2) 特別講演

① 「メカトロニクス技術を活用した医療機器開発」

秋田大学 教授／秋田大学大学院 理工学研究科システムデザイン工学専攻 教授 長縄明大

② 「これからの感染対策と日本の医療」

公益財団法人結核予防会 理事長 尾身 茂

③ 「日本農村医学会の新たな取り組み－地域医療・多職種協働－」

佐渡総合病院 院長 佐藤賢治

④ 「“環境と子どもの健康に関する北海道スタディ”から考えた日本のSDGs」

北海道大学環境健康研究教育センター 名誉教授 岸 玲子

⑤ 「こども家庭庁の取組みについて」

こども家庭庁支援局 総務課長 林 俊宏

(3) 教育講演

① 「医療機関に求められているサイバーセキュリティとは：

ランサムウェアによる被害を経験して」

つるぎ町立半田病院 病院事業管理者 須藤泰史

② 「“住み慣れた地域で最期まで暮らす”を支える“治し支える地域完結型医療”

に求められるチーム医療・ケア」

NPO 法人ホームホスピス秋田 ホームホスピス秋田訪問看護ステーション

理事長・所長 中村順子

(4) 文化講演

「トップブランドを目指して！－「サキホコレ」の開発と今後の展開について－」

秋田県農林水産部 部長 齋藤正和

(5) 金井賞受賞講演

「地域医療のあるべき姿を求めて－3病院の統合・再編で未来に残す安心な暮らし－」

北秋田市長 津谷永光

(6) シンポジウム

①多職種連携シンポジウム

「CAN YOU COLLABORATE? -心不全から多職種介入のSDGsを考える-」

②AST シンポジウム (抗菌薬適正使用支援チーム (AST) シンポジウム)

「どうしてる? AST 活動」

(7) 一般演題

(8) 臨床研修医セッション

(9) ランチョンセミナー

2. 令和5年度JA共済連委託研究事業の実施

(1) 急性期の骨粗鬆性椎体骨折に対する外固定装具の治療効果と必要性の是非-前向きコホート研究-

主任研究者：船山 徹 (筑波大学医学医療系 整形外科講師)

(2) コンバインおよび歩行型トラクター・耕運機事故の事故様態分析に基づく事故対策の提言について-全共連生命・傷害共済証書から抽出した農作業事故事例を用いて-

主任研究者：大浦栄次 (富山県農村医学研究所 主任研究員)

(3) 長野県佐久市における腰椎変性後彎症のコホート研究(第2回調査)

主任研究者：福島和之 (佐久総合病院佐久医療センター 整形外科 統括部長)

(4) 中山間地域在住高齢者の農業従事と認知機能の関係性の検討-島根大学 CoHRE データを使用した研究-

主任研究者：黒田陽子 (島根大学医学部 内科学講座内科学第三 作業療法士)

(5) 総合事業を考慮した疾病と要介護の関連に関する研究

主任研究者：古賀美紀 (島根大学医学部基礎看護学講座 教授)

(6) 僧帽輪周囲心房頻拍の出現予測

主任研究者：原 聡史 (総合病院土浦協同病院 循環器内科)

3. 特別研究プロジェクト事業の実施

「農薬中毒部会」、「農機具災害部会」、「農村の生活習慣病部会」において、データベースの充実など調査研究事業を引き続き実施する。第197回理事会後に発足した「地域医療・多職種協働部会」においては、当学会への発表・論文・研究成果から地域医療・多職種協働に関する研究を行なう。

また、本学会の農機具災害部会と全国農業協同組合中央会(JA全中)が中心となって、平成22年5月に設立した「全国農作業事故防止対策連絡協議会」の活動に対して、引き続き協力・支援し、さらに、農機具災害部会が中心となって、農作業安全対策等において韓国との交流を促進する。

4. 機関誌の発行

機関誌「日本農村医学会雑誌」の内容の充実と年6回の定期発行に努めるとともに、国際農村医学会雑誌と統合した英文誌(Journal of Rural Medicine)は、年4回の定期発行(オンライン発行)に努める。

5. ホームページの充実
対外広報活動の一環として、ホームページのリニューアルおよび利用促進を図る。
6. 地方会との連絡連携の強化
日本農村医学会地方会との連携および組織の拡充強化を図る。
7. 関係学会ならびに関係研究機関との交流
各種学会ならびに関係機関との交流を促進する。
8. 国際農村医学会との関わり
現実的な運営を行うために変更した IARM 定款に基づき、理事会の開催調整や学会誌機能を継続する。令和 5 年 9 月にセルビアにおいて開催される第 22 回国際農村医学会学術総会に参加する。
9. 日本農村医学会賞の授与
本学会の研究において顕著な功績をあげた会員または本学会の発展に大きく貢献した会員に対し、日本農村医学会賞を授与する。
10. 日本農村医学会金井賞の授与
農村の保健・医療の向上に顕著な功績をあげた個人または団体に対し、金井賞を授与する。
11. 日本農村医学会研究奨励賞の授与
「日本農村医学会雑誌」および英文誌(Journal of Rural Medicine)に掲載した優秀な研究論文に対し、研究奨励賞を授与する。
12. 日本農業新聞賞に係る候補者(団体)の推薦
農村の保健・医療・福祉の向上に寄与する研究・活動を行った個人または団体を、日本農業新聞賞の候補として(株)日本農業新聞へ推薦する。
13. JA 全厚連会長賞に係る候補者の推薦
地域医療に貢献した厚生連所属の医師を、JA 全厚連会長賞の候補として全国厚生農業協同組合連合会へ推薦する。
14. 農村医学に関する統計・資料の収集
農薬中毒、農機具災害および農村の生活習慣病に関する情報の収集・提供に努める。